

2019年3月20日

保護者各位

公文国際学園中等部・高等部  
学校長 梶原 晃

## スーパーグローバルハイスクール（SGH）指定期間満了のお知らせ

早春の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。平素は学園の教育活動に御理解と御支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、標記にあります通り、本校のスーパーグローバルハイスクール（SGH）指定期間が、今年度末をもって満了致しましたのでお知らせ致します。本校は平成26年（2014）度に文部科学省より5年間のSGH指定を受けました。現在、SGH指定を受けている高校は123校に上りますが、そのうち56校がSGH初年度の平成26年度指定校であり、本校同様、今年度末で指定期間満了となります。

4月以降はSGHという肩書きが外れることとなりますが、たとえSGH指定がなかったとしても、国際理解教育活動は本校の教育目標の根幹に関わる部分であり、更なる充実が望まれることは言うまでもありません。一方で、SGH指定に際して、やや膨らませすぎた感のある活動全体の分量やバランスについては、見直す時期に来ているとも思われます。多様な活動の量的拡大を求めてきた時期を過ぎ、それぞれの活動の質的充実を目指す時期に来ていると感じられるのです。

以上のような状況を鑑み、SGH指定期間満了に伴う諸活動の見直しの一環として、2019年度以降、高1の「Global Issues（GI）」を思い切って廃止することに致しました。本校の高1には、既に総合学習としての「Project Studies（PS）」がある上に、必修科目の履修が多く、全てを十分にやり切るには無理があると判断したためです。また、GIで提示されていた国際的な課題に対する問題意識については、総合学習や各教科の日常の学習活動の中に組み込んでいくことが十分可能であるという判断もありました。そういう意味においては、廃止というよりも、日常の教育活動への発展的昇華と言った方が適切かもしれません。

他の国際理解教育活動については、SGH指定終了後も継続し、更なる充実を図っていく所存です。本校の教育目標には「国際社会で活躍できる広い視野と行動力を持つ人間の育成」が明確に示されています。それはSGHという肩書きが外れても、決して揺らぐことのない建学の理念です。SGH指定の5年間の経験を糧に、本校における国際理解教育活動の質の充実を目指したいと思います。保護者の皆様の御理解、御協力のほど、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。